

「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」県民説明会 八千代会場 1回目

- 1 日 時：令和7年6月27日（金曜日）午後6時30分から午後8時まで
- 2 場 所：勝田台文化センター ホール
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」の説明と質疑
- 4 参加者：20名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

Q 八千代東と八千代西の統合によって1クラスの人数がどうなるか。

A 統合後の1クラスの人数は基本的に40人になります。公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律で1学級の生徒数を40人を標準とすると定められています。

Q 教員の人数を増やして少人数学級を増やした方がいいのではないか。

A 少人数で学習することできめ細かく一人一人の生徒に丁寧な指導が可能になると思いますが、学級編成については先ほど申し上げたように40人が基本となります。教科によっては習熟度別学習や少人数学習を導入するなど、きめ細かな学習指導を展開することは可能であると思います。

Q 不登校になった生徒については40人学級がきついのではないか。統合される学校にも不登校生徒が多いと聞いている。少人数だから救われることもあるが、どう考えるか。

A 不登校の児童・生徒の増加傾向は千葉県だけでなく、全国的な課題であると捉えています。国は学びの多様化学校（不登校特例校）を全国で300校設置して対応していくことを打ち出しています。千葉県においては浦安市で中学校、習志野市で小学校が学びの多様化学校を設置しています。八千代東高校と八千代西高校の統合校では、県立高校においても学びの多様化学校をコース制という形で1クラス設置することを考えています。具体的には、複数担任制を導入したり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを重点的に配置したりするなど、医療・福祉の側面からも生徒をサポートできる環境を整備していきます。

Q 令和10年度は、2・3年生がどういう想定になっているか。八千代西と八千代東でそれぞれのクラス数があるところで、6学級規模になるのか。

A 令和10年度の1期生については、6学級規模を想定しています。2・3年生は八千代西高校と八千代東高校の生徒が合わさった学級数になります。すなわち、令和8年度入学生が令和10年度の3年生、令和9年度入学生が令和10年度の2年生となります。令和8年度、令和9年度の募集学級数については、教育委員会で検討中であり、例年通り8月に公表する予定です。統合時に教室数が足りないなどの状況にならないよう、八千代東高校の施設・設備などを精査した上で学級数を検討してまいります。

Q 8月に発表される来年4月の募集学級数と再来年の募集学級数は変わる可能性があるのか。

A 八千代東高校、八千代西高校の2校に限らず、どの学校においても変わる可能性があります。

Q 両校の学級数は、少なくとも足して8学級以下の募集定員となるのか。

A 現在、八千代東高校の施設・設備を精査しているところですので、明言はできません。丁寧に検討してまいります。

- Q 千葉高校の生徒によるエレベーター設置の署名活動があったが、改修だけでなくエレベーターの設置もしてほしい。
- A エレベーターの設置に関しては、県としても重要だと認識しています。全ての学区で均等に整備を進めているところです。八千代東高校については、大規模改修が予定されており、設置する方向で整備を進めているところです。
- Q 他校で行っているホームルームを多展開することによって少人数学級とする取組を、他の学校に取り込めないか。
- A 募集は40人単位ですが、実際にホームルームを何展開にするのかは、各学校に配置された教員数や体制を十分に検討して、校長先生の御判断で行っていると認識しています。第2次実施プログラムが正式に決定した後に、両校の職員と、教育政策課の職員により統合準備室を設置します。そこで学校の運営体制、教育課程やホームルームの在り方についても検討していきます。
- Q 40人規模で不登校支援のクラスを募集し、学校から20人2クラスのような展開の要望があったら、それに見合う教員の配置ができるのか。
- A 統合準備室には両校の職員だけでなく、私たち教育政策課の職員も加わります。統合後の学校運営について両校の先生たちの声を受け止めて、行政に反映させる目的もありますので、現場からそのような意見があれば、検討していきたいと思います。なお、教員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを重点的に配置し、教員の負担を軽減するとともに、医療・福祉の側面からも生徒を支えることにより、生徒たちが居心地の良い学校を作っていきたいと考えています。
- Q スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーをどのくらいの頻度での配置を想定しているか。
- A 断定的なことは申し上げられませんが、現場の先生たちがスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの重点的な配置を求めているという御意見をいただいたので、令和10年度に向けて、検討してまいります。
- Q 八千代西高校の校舎をどのように活用するのか。
- A 八千代西高校の校舎の令和10年度以降の活用については、何も決定していません。これまでも、高校の統合によって使用しなくなった跡地に関しては、県にとって貴重な財産であるため、有効な利活用を図っていくことが重要だと認識しております。必要に応じて、地元市の御意見を伺うなどして、丁寧に検討していきます。
- Q 八千代東高校と八千代西高校で同じ教科書を使っているのか。教科書が異なる場合、統合後とまどうことがあるのではないか。
- A 令和10年度には、両校の2・3年生が同じ校舎で生活することになります。プログラム決定後に統合準備室でクラス編成や授業展開について、丁寧に検討していきます。教科書が別であるなど、状況によっては両校の生徒が別々のクラスで別々の授業を受けることは可能性としては大いにあります。両校の生徒が安心して授業に打ち込めるように、生徒を第一に考えて検討してまいります。
- Q 八千代東高校と八千代西高校が統合することによって、治安が悪くなったり、生徒が安心して学習に打ち込めなかったり、近隣の住民に迷惑がかかったりするのではないか。偏差値はどうなるのか。

A 治安という言葉がありましたが、統合に関係なく全ての県立高校の生徒のみなさんに、安心して毎日の高校生活を過ごしてほしいと思っています。今通っている学校で心配なことがあるということでしたので、学校の先生とも情報共有して、生徒のみなさんが安心して学校生活を送れるよう努めていきます。また学力差の話ですが、県内には様々な学校があり、それぞれ特徴があり違いはあるかもしれませんが、高校は勉強するだけの場所でなく、社会人としての素養を育む場でもあります。異なる学校同士が統合することで、友人関係や学校生活に深みが生まれ、生徒のみなさんに良い相乗効果が生まれると思います。

Q 八千代地区の学校に不審者が入ったという話もあり、不安である。子どもたちの安心安全のためにも、警察の巡回などの対策ができないか。

A 生徒の安全を脅かすような不審者が出た場合、教育委員会にも逐一連絡が入るようになっていきます。警察や地元市など関連部署と連携し、生徒のみなさんが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。

Q 村上団地あたりで、外国の方が増えている状況についてどう考えているか。

A 海外の方が増えて国際化が進んできたという実感はあります。そのことについて気になることがありましたら、学校の先生、教育委員会などに御連絡いただければ、関係各所と情報共有して対応してまいります。

Q 老朽化している学校が他にも多くあり、改修工事を行っていただきたい。

A 施設の老朽化については、県立学校全てを訪問して、職員から状況を聞き取り、必要に応じて順次対応しています。老朽化が進んでしまい、改修・修繕が追い付いていない現状もありますが、生徒のみなさんが安心・安全に学校生活を送れるよう努めているところです。

Q 八千代東高校の体育館にエアコンは付いているか。改修時に付けてほしい。他の学校にも付けてほしい。緊急時にも避難場所として地域住民が使うこともあるが、どう考えているか。

A 体育館の空調については、生徒の学習環境の向上と避難所としての機能の強化を目的として、今年度から着手しました。今後、順次整備を進めていきます。